

令和6年度 岡山県立岡山朝日高等学校 学校評価書

【中間評価と年度末評価】 具体的計画の達成状況をもとにした評価 A:重点目標を達成できた B:重点目標をほぼ達成できた C:重点目標を達成できなかった

【総合評価】 学校経営目標ごとの総合的な評価 A: 目標を達成できた B: 目標をほぼ達成できた C: 目標を達成できなかった

本年度の 具体的な学校経営目標	番号	分掌	本年度の目標を達成するための 各分掌ごとの重点目標	重点目標を達成するための具体的 計画	具体的計画の達成状況 についての評価基準	中間期の達成状況 (実績と成果等)	中間 評価	年度末の達成状況 (実績と成果等)	年度末 評価	学校経営目標 ごとの 総合評価
1 質の高い学習指導と 高い志を抱かせる進 路指導の充実	(1)	進 路 指 導 課	・生徒一人ひとりに「いかに生きるか」を考えさせた上で、能力・適性を最大限発揮させる「入るべき大学」を目指させ、高い志を持って社会に貢献し、大学やその先の社会で生き抜いていく力の基礎を養成する。	・進路講演会、進路教養講座、ガイダンスを実施し、生き方を考える機会とさせる。 ・生徒の成績を的確に把握し、指導の方向性を教員間で共有する機会を持つ。	・進路講演会や進路教養講座の事後アンケートで肯定的な回答が80%以上。 ・進路係会・担任会などを通じて、指導の方向性を十分検討し、教員間で共有できている。	・事後アンケート「自分の進路や生き方などを考えるうえで参考になった」の肯定的回答(大変・少し)は96.9%(内訳71.4%・25.5%)。 ・進路指導会議や進路検討会など、学校全体の指導方針や各学年の成績を共有する会にはほぼ全員の教員が参加した。1年生の類型選択や、2年生の科目選択についても、指導の方向性について教務課と連携しながら、進めることができている。	B	・進路教養講座の満足度は高かった。 ・進路課主催の会議においてほぼ全員の教員の出席のもと、成績や指導の方向性を共有し、大学受験やその後の人生を見据えた文理選択・コース選択へと導くことができていた。 ・学校評価アンケート(生徒10)「学校は進路を考える機会や適切な情報を提供している」の肯定的回答は90.7%であった。 【R5:91.8、R4:93.2、R3:96.5[%】】	A	B
	(2)	教 務 課	・各教科や課・室と連携し、新教育課程への対応を行うとともに、学術探究系などの類型の効果的な運用を図る。	・教育課程委員会を中心として、教育課程や類型選択の課題を解決する。情報収集を行い、新学習指導要領及び大学入試等をふまえた教育課程の修正を図る。 ・各教科や課・室と連携して、学術探究系の教育活動の効果的な実施、及び、生徒の適切な類型選択を支援する。	・学校評価アンケート(生徒6)「朝日高校では、興味・関心、適性・進路に応じて、科目・コースを選択することができる」の肯定的回答が85%以上。 【R5:88.2、R4:88.8、R3:95.9[%】】 ・学校評価アンケート(教員6)「朝日高校は、生徒が興味・関心、適性、進路に応じて学習を進められるように、科目・コースを設定している」の肯定的回答が85%以上。 【R5:89.1、R4:87.9、R3:88.3[%】】	・旧課程から新課程に移った生徒に関する教育課程上の課題について、県の担当者等と確認して解決した。 ・教育課程の改善については、今後教育課程委員会、運営委員会、職員会議等で議論していく予定である。 ・1年生と2年生の類型選択・科目選択については、教科や該当学年と協議し、生徒への説明資料等の改善ができている。 ・1年生の学術探究系の選択に関しては、学術探究推進室と連携して生徒および担任団を支援している。	B	・学校評価アンケート(生徒6)「朝日高校では、興味・関心、適性・進路に応じて、科目・コースを選択することができる」の肯定的回答が83.4%で、評価基準をやや下回った。 ・学校評価アンケート(教員6)「朝日高校は、生徒が興味・関心、適性、進路に応じて学習を進められるように、科目・コースを設定している」の肯定的回答が92.7%であった。 ・今年度、新課程・新類型が完成した。文系・理系・学術探究系の類型選択や開講科目とその選択等の運用上の課題について、改めて検討する必要がある。 ・生徒、保護者のアンケートの数値が過年度との比較で低下していることを踏まえ、科目・類型選択についてさらに理解を深められるような工夫と、生徒が志高く、納得して類型選択、科目選択、進路選択できる指導方法を研究していく必要がある。	B	
	(2)	学 力 向 上 推 進 室	・生徒の学力向上のため、教員の授業力の向上を図る。	・授業力向上に向けて効果的な取り組みについて共有し推進する。 ・授業アンケートにおける授業満足度(4件法)の指数が1.70(数値が小さいほど、高評価である。) 【R5:1.55、R4:1.52、R3:1.48】 ・学校評価アンケート教職員(8)「授業力向上のための研修や教員相互の研修が積極的に行われており、内容や方法について改善している」の肯定的回答が90%以上。 【R5:87.3、R4:91.4、R3:95.0[%】】	・実践や研究会の紹介を、ポータルサイトを用いて年3回以上行う。 ・授業アンケートにおける授業満足度(4件法)の指数が1.70(数値が小さいほど、高評価である。) 【R5:1.55、R4:1.52、R3:1.48】 ・学校評価アンケート教職員(8)「授業力向上のための研修や教員相互の研修が積極的に行われており、内容や方法について改善している」の肯定的回答が90%以上。 【R5:87.3、R4:91.4、R3:95.0[%】】	・研究会の紹介は、掲示板にて3回実施した(授業見学のお願ひ、指導教諭による授業、補習科公開授業)。 ・授業アンケートは、新任の先生について1学期末実施。2学期末の全教員(常勤)に対しての実施準備が予定通りに進行している。 ・授業見学ならびに参観シートの提出率が、現時点で専門47%、専門外45%と、ほぼ半数に到達しており、2学期中に100%実施に向けて今後も呼びかける予定である。	B	・研究会の紹介はできたが、ポータルサイトを利用した実践の紹介ができなかった。 ・授業見学ならびに参観シートの提出率は、専門分野で54%、専門外で60%となり、100%には達しなかった。 ・授業アンケートは、1学期末に新任者を対象に、2学期末には全教員(常勤)を対象に実施し、2学期のアンケートについては成績段階ごとの結果も併せて分析することができた。 ・授業アンケートにおける授業満足度は1.54となり、目標値を上回った。しかし、生徒の知的好奇心を刺激する授業を行うためには、教員個人および教員相互の研鑽が必要であると考える。	B	
	(3)	図 書 課	・生徒の読書活動を支援し、文化的素養の涵養を図る。 ・探究的学習や、「主体的・対話的・深い学び」のための、生徒の基盤づくりを支援する。	・生徒への良書紹介および読書会LHRを充実させる。 ・図書館教養講座を充実させる。 ・図書委員を中心に、外部との交流を図る。 ・蔵書や視聴覚機器等の充実を図り、学習環境を整備する。	・年間利用0冊者の割合が、40%未満。 【R5:37.1、R4:45.2、R3:35.1[%】】 ・図書館教養講座を3回以上開催する。	・年間利用0冊者の割合は、現時点で71%。 【R5:37.1、R4:45.2、R3:35.1[%】】 今後読書会もあり、利用率の増加が見込まれる。 ・図書館教養講座は、1学期に俳句の講座を開催し、2学期には香道の講座を開催予定である。	B	・年間利用0冊者の割合は40%。評価基準はわずかに達成できなかったが、ほぼ想定通りであった。 ・図書館教養講座は2学期末までに2回開催。できれば3学期に1回開催したいと考えている。 ・昨年度に引き続き、他校との図書委員の交流会と県立図書館への展示に参加した。 ・机やPCの更新など、予算の許す範囲で環境整備を進めた。	B	

令和6年度 岡山県立岡山朝日高等学校 学校評価書

【中間評価と年度末評価】 具体的計画の達成状況をもとにした評価 A:重点目標を達成できた B:重点目標をほぼ達成できた C:重点目標を達成できなかった

【総合評価】 学校経営目標ごとの総合的な評価 A: 目標を達成できた B: 目標をほぼ達成できた C: 目標を達成できなかった

本年度の 具体的な学校経営目標	番号	分 掌	本年度の目標を達成するための 各分掌ごとの重点目標	重点目標を達成するための具体的 計画	具体的計画の達成状況 についての評価基準	中間期の達成状況 (実績と成果等)	中間 評価	年度末の達成状況 (実績と成果等)	年度末 評価	学校経営目標 ごとの 総合評価
2 創立150周年を契機 とし、自主自律、自重 互敬の精神に基づく 品格や社会性のさら なる涵養	(1)	生徒 課	教職員全体で本校の伝統的な教育 理念を共有し、自主自律・自重互敬 の精神に基づき自由を尊重する態度 が涵養できるよう、生徒を支援する。	・創立150周年の年として、朝日祭等 の学校行事や部活動をより充実して 取り組めるような記念行事等を企画 する。 ・執行部を中心とした生徒会活動や 委員会活動に、生徒が意欲的、主体 的に取り組める環境を整える。	・記念行事などの企画数が3つ以上。 ・学校評価アンケート(生徒2)「朝日 高校では、自重互敬の 精神を基本として、品性を高めたり、思いやりの心を育て る指導がなされている」の肯定的回答が85%以上。 【R5:87.5、R4:88.6、R3:95.4【%】】	・記念試合は野球部とサッカー部が行い、記念稽古会を剣 道部が行った。今後実施予定の部活動が複数ある。 ・朝日祭は、文化の部、体育の部とも、生徒が中心となっ て150周年記念の内容を盛り込み、例年よりも盛り上がっ た。 ・生徒会執行部や各種委員会の生徒達たちの企画や取り 組みが建設的に進むよう、生徒課として助言や後押しをお こなった。	A	・記念行事などの企画数は、次に挙げるとおり9つ以上で あった。 ・記念試合は野球部、サッカー部が行い、記念稽古会は剣 道部、弓道部が行った。朝日祭の文化の部では「クイズ大 会」「スタンプラリー」などを実施。体育の部では「着付け競 争」「借り物競争」を復活させた。また有志による応援団の 復活があり、朝日祭の開会時と閉会時のパフォーマンスで 盛り上げた。 ・伝統を大切にするとともに、進取の精神が見られ、主体 的に取り組む生徒達の力の大きさを感じられた。 ・学校評価アンケート(生徒2)「朝日高校では、自重互敬の 精神を基本として、品性を高めたり、思いやりの心を育て る指導がなされている」の肯定的回答は87.0%でR5年 度と同程度であった。	A	
	(2)	保健 ・ 厚生 課	・学校生活全般における、生徒の美 意識を涵養する。 ・学校全体の防災意識を涵養する。	・環境委員会の活動を中心に、その 取り組みがクラスに投げかけられ、全 校生徒の美化意識を高められるよう 支援する。 ・学校防災マニュアルの見直しを行う とともに、実際の災害時を想定した具 体的行動を教職員、生徒がとれるよ うな避難訓練を実施する。	・学校評価アンケート(生徒15)「あなたは、日々の清掃活 動に取り組んでいる。」の肯定的回答が80%以上。 【R5:86.3、R4:92.6、R3:87.9【%】】 ・学校評価アンケート(生徒16)「朝日高校は、防災安全教 育に努めている。」の肯定的回答が85%以上。 【R5:82.9、R4:86.4、R3:94.1【%】】 (アンケート項目を追加) (生徒)(案)「あなたは、防災安全LHRや防災訓練などを 通じて、防災意識の高揚に努めている。」の肯定的回答 が80%以上。	・全校生徒の美化意識を高めるため、前期環境委員会は 清掃状況の点検活動を実施した。さらに、後期環境委員会 は、清掃状況が不十分な場所について改善を促す方策を 検討しており、課として前期・後期ともその取り組みを支 援することができている。 ・5月10日に実施した避難訓練では、逃げ遅れや負傷者を 演じる生徒を、予め教員にも非公表で校舎内に待機させ 実施した。一般生徒は迅速に避難し、また各防災組織の教 員が学校防災マニュアルにそって行動し、実際の災害時に 対応できる実践的な訓練を行うことができた。	A	・次のように、評価基準を概ね達成できている。また、後期 環境委員会が清掃状況の改善を促す方策を実施した。 ・学校評価アンケート(生徒15)「あなたは、日々の清掃活 動に取り組んでいる。」の肯定的回答が79.8%で評価基 準をわずかに下回った。 ・同(生徒17)「あなたは、避難訓練やLHRなどを通して防 災意識を高めている。」の肯定的回答が85.8%。同(生徒 18)「朝日高校は、防災安全教育に努めている。」の肯定 的回答が84.1%。評価基準を上回った。 ・清掃活動、清掃指導については、学校自己評価アンケ ートに生徒・教員から要望や提案が寄せられており、今後検 討する必要がある。	B	B
	(3)	教育 相 談 課	温かく受容的な学校風土の形成を推 進するため、自他ともに思いやりのあ る集団の形成、人間関係づくりの支 援を行う。	・ピア・サポート研修、Hyper-QU、 いじめ・悩み調査、LHRの実施を通 して、集団理解、他者理解・自己理解 を深める活動、調査を行う。 ・専門医、SC、SSWと連携し、専門 的な助言を参考にし、生徒(保護者) に必要な助言、支援を行う。	・教育相談関連のLHR実施後、生徒アンケートを行い、満 足度について肯定的回答が80%以上。 ・学校評価アンケート(生徒12)「朝日高校では、悩むこと ・困ることがあれば、さまざまな機会に先生に相談すること ができ、対応してもらえる。」の肯定的回答が90%以上。 【R5:91.1、R4:93.1、R3:94.1【%】】	・5月に行った1日HRに向けて、1・2年各クラスのレクリ エーション担当の生徒にレクリエーションの講習会を実 施。当日60名を超える生徒が参加。レク活動を積極的に 行い、クラスの人間関係づくりに貢献した。 ・7月にHyper-QUを1年生を対象に行った。また「いじ め・悩み調査」を全学年で実施し、上記調査の分析と情報 共有を進めている。 ・専門医、SCによるカウンセリングでは、生徒、保護者、教 員に適切なアドバイス、多様な視点をいただいている。行 政等の支援が必要と考えられる案件については、SSWに 協力をいただき、それぞれの生徒、保護者の支援を行って いる。	B	・教育相談LHR実施後の生徒アンケート満足度について 肯定的回答は95%以上であった。 ・学校評価アンケート(生徒12)「悩むこと、困ることがあれ ば、さまざまな機会に先生に相談することができ、対応して もらえる」の肯定的回答は88.5%で評価基準をわずかに 下回った。 ・専門医やSCによるカウンセリングを行うとともに、特に難 しい案件についてはSSWによる保護者や生徒との面談を 行い、協力をいただきながら、それぞれの生徒への支援を 進めている。	B	

令和6年度 岡山県立岡山朝日高等学校 学校評価書

【中間評価と年度末評価】	具体的計画の達成状況をもとにした評価	A: 重点目標を達成できた	B: 重点目標をほぼ達成できた	C: 重点目標を達成できなかった
【総合評価】	学校経営目標ごとの総合的な評価	A: 目標を達成できた	B: 目標をほぼ達成できた	C: 目標を達成できなかった

本年度の 具体的な学校経営目標	番号	分 掌	本年度の目標を達成するための 各分掌ごとの重点目標	重点目標を達成するための具体的 計画	具体的計画の達成状況 についての評価基準	中間期の達成状況 (実績と成果等)	中間 評価	年度末の達成状況 (実績と成果等)	年度末 評価	学校経営目標 ごとの 総合評価
3 リーダーシップを発 揮して新たな社会を 創造し、牽引すること ができる、未来に貢 献する人材の育成	(1)	教 育 口 推 進 室 ル	・生徒の興味・関心をグローバルな観 点から広げ、かつ深化させ、将来は 国内にとどまらず活躍できる人材の 育成を目指す。	・イギリス研修において、現地で交流 できる高校を探すなど更なる充実を 目指す。 ・異文化との交流の機会、研修、活動 の情報提供、またその準備段階とし ての英語ディベートなどの機会の提 示や参加の奨励をする。	・各行事の事後アンケート等で満足度について肯定的回答 が80％以上。 【例年:80～90％】	・グローバル教養講座を、9月25日に実施した。 事後アンケート「今回の教養講座の内容を、興味を持って 聞くことができた」の肯定的回答は90.8％。 ・イギリス研修については、定員を昨年より7名増の40名 に対し、49名の申込(1年45名、2年4名)があり、選考の 結果40名を決定した。今後は事前研修等を進めていく。	A	・イギリス研修は3月の実施に向けて事前研修等を予定通 り進めている。昨年度より旅行費用は高額になったが、研 修内容はより充実したものになった。来年度以降は内容と 経費の費用対効果の検討が必要だと考えている。	A	A
	(2)	生 徒 課	・生徒が、自主的・自律的かつ探究的 に勉学、学校行事及び部活動等に生 き生きと取り組み、「文武両道」を貫く ことで、未来に貢献できる力を身に つけられるように支援する。	・職員会議や担任会等で、学校行事 や部活動による学びの意義を確認す るとともに、生徒の自由な時間を侵 害しないようにするという共通理解 が深まるように働きかける。 ・朝日祭等の学校行事の準備や課外 活動に生徒が取り組む放課後等の 活動時間を確保できるように、環境 を整える。 ・生徒自身が学校行事や部活動によ る学びの意義を理解し、自主的に勉 学との両立を目指すように、担任か らの支援を促す。	・学校評価アンケート(生徒5)「朝日祭などの学校行事は 充実しており、積極的に参加できる」の肯定的回答が90％ 以上。 【R5:95.7、R4:94.9、R3:97.0【％】】 ・同(生徒11)「朝日高校は、部活動などの課外活動が盛ん で、自主的・積極的に活動できる」の肯定的回答が90％ 以上。 【R5:92.4、R4:94.1、R3:93.5【％】】 ・同(教職員15)「朝日高校は、部活動等の課外活動に生 徒が積極的に参加し、活動が活発になるように、さまざま な面で支援している」の肯定的回答が90％以上。 【R5:90.9、R4:96.6、R3:93.3【％】】	・朝日祭の実施内容に関する生徒会執行部の提案につい て、職員会議で議論をし、生徒の提案は却下されること になったが、それによって生徒達は新たな企画を生むこと ができた。本校教員として、「学校の大切にする部分」と「生徒 達の自由度を最大限に尊重しようとする姿勢」の共有が図 られたことは意義深い。 ・学校行事や部活動に全力で取り組むことの大切さを多く の教員は自覚して、生徒達への指導や支援ができています。	A	・学校評価アンケート(生徒5)「朝日祭などの学校行事は 充実しており、積極的に参加できる」の肯定的回答は 94.2％。また同(生徒11)「朝日高校は、部活動などの課 外活動が盛んで、自主的・積極的に活動できる」の肯定的 回答は93.7％。さらに同(教職員15)「朝日高校は、部活 動等の課外活動に生徒が積極的に参加し、活動が活発に なるように、さまざまな面で支援している」の肯定的回答は 96.4％であった。 ・いずれも評価基準を大きく上回る高い評価となっている 。教職員が学校行事や部活動による学びの意義を理解し 、積極的に支援している成果だと思われる。 ・多くの生徒が、勉学と部活動を両立させて頑張っており 、高校総体や総文祭などの上位大会でも活躍している。ま た、生徒会執行部を中心に朝日祭などの学校行事に自主 的、自律的かつ探究的に取り組む姿が多く見られた。	A	
	(2)	資 料 館	・生徒の自主的・自律的な学びを支 援し、生徒の文化・芸術分野における 才能・個性を伸ばす。	・創立150周年にふさわしい内容を もつ特別展や岡山朝日文芸作品コン クールを開催するとともに、生徒へ積 極的な参加・出品を呼びかける。	・生徒への広報手段を増やす。 ・文芸作品コンクールへの出品数が計35点以上。【R5:34 点、R4:38【点】】	・過去10年間の絵画・書道の出品作品を図書館のデジタ ルサイネージで紹介している。 ・創立150周年記念式典があるため、実質的な締め切りが 11月中旬と遅い。これからこそ生徒への呼びかけを強化し ていきたい。	B	・記念行事「文学の集い」の好影響が、3年生や文学部員 以外の創作文学部門の出品数(とくに小説)が多く、コン クール全体で過去最多の57点が出品された(実出品者数 48名)。さらに、3部門に出品した生徒が初めて登場する など、生徒の才能・個性の発露を大いに感じることができ た。	A	
	(2)	学 術 探 究 推 進 室	・探究活動での学びにおいて、3年生 については進路実現へつながるよう に支援し、2・1年生については教科 学習の取り組みの深化へつながるよ うに意識付けを行う。	3年生:学術探究系生徒を個別に支 援し、その支援事例を蓄積する。 2年生:面談回数を増やし、探究活動 への呼びかけを適切に行う。 1年生:「総合的な探究の時間」の充 実を図るとともに、 GoogleWorkspaceを利用して活 動情報を学年団等に提供する。	・3年生:受験準備に際し、探究の活動事例を加えた個別 指導・支援を行い、その指導・支援事例を蓄積できてい る。 ・2年生:探究Ⅰ、Ⅱそれぞれの類型に担当教員を充て、分 担して実施した面談回数が3回以上。 ・1年生:「総合的な探究の時間」の活動内容を学年団と共 有するとともに、教科に関する探究的な活動情報は各教科 担任に提供できている。	・3年生に関しては、探究系生徒の今後の進路希望に応じ た対応を行う予定。現状では特別な指導、支援を必要とは していない状況。 ・2年生に関しては、Ⅰ系、Ⅱ系で計画的に面談を行って いる。Ⅰ系、Ⅱ系で希望する活動を行っている生徒もいる が、通常授業を優先している生徒もいる。 ・1年生に関しては、講演会などの行事に関して感想文を GoogleWorkspaceを利用して提出させるなど学年との 連携を図っている。類型選択において、学術探究系の選択 者が増えるような呼びかけと指導が課題である。	B	・探究系の3年生には、進学に向けて特別な指導、支援を 必要とする生徒はいなかったが、探究分野に関連した進路 実現を目指している。 ・2年生の進路面談はほぼ予定どおり実施できた。探究Ⅱ 系の生徒がリーダーシップをとり、理系生徒と全国レベル の探究活動を行った事例もあった。また、2年生の探究系 生徒を対象に、8月に筑波大学研修を実施した。 ・1年生の類型選択では、探究系の過去2年間の活動実績 を踏まえてLHRにおいて、先輩生徒の活動例を交えて具 体的に説明することができた。また、学術探究系を選択す る生徒も増えつつある。	B	
	(3)	教 育 相 談 課	・ピア・サポーターの育成を進め、生徒 間の親密な人間関係を築く支援を行 う。	・ピア・サポート研修、LHRの実施を 通して、ピア・サポーターとなる生徒 の、集団理解、他者理解・自己理解 を深めるとともに、他者支援のできる 行動力を高める活動を行う。	・ピア・サポート研修の参加生徒への事後アンケート等で満 足度について肯定的回答が80％以上。	・ピアサポート研修会を7月22日、23日に行った。参加生 徒からの事後アンケートはすべてが肯定的な回答で、気付 かなかった視点、自己支援、他者支援について学問的、科 学的な分析、示唆、発見が多くあり、学校生活に生かせる ヒントが得られたとの意見がでた。今後行うLHR活動と連 動させ、保健委員を中心に学校全体に支援の輪を広めて いきたい。	A	・ピアサポート研修参加生徒の事後アンケートでは、参加 生徒全員から肯定的回答が得られた。今後もピア・サポー トの活動を継続しながら、生徒の視点からクラスの様子を 把握する機会を得、保健委員を母体としたピア・サポー ターをその他の生徒にも広げ、活動の定着と深化に努めて いきたい。	A	

令和6年度 岡山県立岡山朝日高等学校 学校評価書

【中間評価と年度末評価】 具体的計画の達成状況をもとにした評価 A:重点目標を達成できた B:重点目標をほぼ達成できた C:重点目標を達成できなかった

【総合評価】 学校経営目標ごとの総合的な評価 A: 目標を達成できた B: 目標をほぼ達成できた C: 目標を達成できなかった

本年度の 具体的な学校経営目標	番 号	分 掌	本年度の目標を達成するための 各分掌ごとの重点目標	重点目標を達成するための具体的 計画	具体的計画の達成状況 についての評価基準	中間期の達成状況 (実績と成果等)	中間 評価	年度末の達成状況 (実績と成果等)	年度末 評価	学校経営目標 ごとの 総合評価
4 創立150周年記念の 学校行事の充実、ICT教育の推進	(1)	教務課	・創立150周年にふさわしい生徒の学力・人間力を育成する授業・学校行事等を確実に実施する。	・課・室・学年・教科等の関係部署と情報交換を密に行い、より効果的な学校行事を企画・運営する。 ・式典の在り方や参加生徒の心構えについて検討し、効果的な実施を図る。	・創立150周年記念行事の実施目的や意義をふまえ、効果的でスムーズな実施を図ることができている。 ・学校評価アンケート(生徒1)「朝日高校には、歴史と伝統に培われたすぐれた特色があると感じられる」の肯定的回答が93%以上。 【R5:92.3、R4:93.9、R3:95.9[%】】 (質問項目の変更) 同(生徒19)を「この1年間、朝日高校で学ぶことにより、あなた自身が成長していると感じる。(創立150周年記念の様々な行事を通しての成長を含む)」に変更して実施。肯定的回答が90%以上。 【R5:94.4、R4:93.4[%】】	・創立150周年の歴史や伝統について学ぶロングホームルーム(1、2年生)を10月3日に計画している。 ・関係部署と連携して、記念演奏会や記念朝日祭等を順調に実施できている。 ・7月の1学期終業式については、講堂文化と熱中症対策のバランスに考慮して、講話は体育館で対面形式で行い、表彰式・壮行式は教室でリモート形式で行った。	B	・学校評価アンケート(生徒1)「朝日高校には、歴史と伝統に培われたすぐれた特色があると感じられる」の肯定的回答が92.0%で、評価基準をやや下回った。 ・同(生徒19)「この1年間、朝日高校で学ぶことにより、あなた自身が成長していると感じる。(創立150周年記念の様々な行事を通しての成長を含む)」の肯定的回答が90.7%であった。 ・創立150周年記念行事は、すべて意義のある形で実施することができた。今後も、各行事が生徒の成長によりつながるようにしていくことが課題である。 ・1学期終業式及び2学期終業式は、健康面を考慮し、講話を体育館で、表彰式・壮行式はリモートで行った。また、3学期始業式は寒さ対策として、防寒着の着用のもと、大型ヒーターを導入した上で対面で実施した。	A	B
	(1)	連広携報推・進地室域	・創立150周年の様々な行事の広報活動、小・中学生とその保護者等に向けた広報活動を充実させ、本校の魅力の発信に努める。	・創立150周年記念事業についてホームページ及び報道発表等で広報する。 ・オープンスクールと学校説明会において、本校の魅力の発信の充実を図る。	・創立150周年記念事業について、広報できた事業数90%以上。 ・オープンスクールの参加者アンケートで「本校の魅力を感じた」についての肯定的回答が90%以上。【R5:(全体的な満足度)99%】	・ホームページに創立150周年記念事業の一覧と実施当日の様子などを紹介するコンテンツを整備し、適時更新している。 ・オープンスクールの参加者数は、昨年度と同程度の942名。参加者アンケート「本校の魅力を感じた」の肯定的回答は97%。	A	・創立150周年記念事業のすべてに関してホームページによる広報活動を適時実施することができた。 ・オープンスクールの実績は中間期の達成状況のとおりであるが、一方で、本校の魅力が十分には伝わっていない現状も把握している。広報について発信内容、手法の見直し、オープンスクールの内容の見直し、中学教員向け説明会、独自問題の説明会などを検討する必要がある。	B	
	(2)	ICT推進室活用	・1人1台端末の活用による質の高い学習指導を推進する。	・各教科等と連携してChromebookを用いた実践事例を共有し指導力向上を図る。 ・協働学習で利用するJamboardの代替となるアプリの研究及び選定を行う。	・12月までに10例以上を収録した実践事例集を作成し、昨年度のものも含めてデータベースを構築している。 ・Jamboardの代替となるアプリを決定し、教員に活用方法使い方を周知できている。	・10月の職員会議で各教科等に実践事例の依頼をする予定である。 ・Jamboardの代替はFigjamにする予定である。今後、県教委からの指示を待って対応する。	B	・授業実践事例集を今年度も作成することができた。内容的にはまだまだ課題が多いので、改善しながら今後も継続する予定である。 ・Figjamについては、県側の設定が完了し、校内で利用可能な状態になっている。実際に利用している教員も数名いるので、来年度は活用事例に掲載できるように活用方法の研修を実施する予定である。 ・学校評価アンケートでは、生徒、保護者から1人1台端末の活用についての要望が複数寄せられており、対応の検討が必要である。	B	
5 教師自身が研鑽を積み、学び続ける集団となるための働き方改革の推進	(1)	管理職	・学校の業務のDX化に取り組み、働き方改革推進に努め、教職員の充実度や満足度の向上と健康の維持を推進する。	・業務改善につながる情報を定期的に発信し、DX化を推進し、時間外業務時間の削減を図る。 ・週休日の振替や勤務時間の割振り変更の活用を促進し、教職員の疲労蓄積の未然防止に努める。	・学校評価アンケート(教職員29)「この1年間を振り返って、この学校で教育することにより、自分自身が充実感や満足感をもつことができている」の肯定的回答が80%以上。 【R5:78.2、R4:67.2、R3:80.0 [%】】 ・時間外勤務時間が前年比で5% (2.4時間) 以上減少。 【R5:48.5、R4:50.9、R3:46.8[時間]】	・10月から新しい保護者連絡システム「校支援」の運用を開始した。今後はDX化に繋げる活用を検討し、業務改善につなげていきたい。 ・時間外勤務時間は、8月末時点で、前年度平均49.7時間から今年度平均45.6時間。前年比で8.2%の減少となっている。	B	・学校評価アンケート(教職員29)「この1年間を振り返って、この学校で教育することにより、自分自身が充実感や満足感をもつことができている」の肯定的回答は81.8%であった。 ・時間外勤務時間は、12月末までの前年比では8.2%減少した(R5:50.8 → R6:46.7[時間])。 ・新しい保護者連絡システム「校支援」の本格運用を、10月から開始し、担当者からは負担軽減の意見も得られた。保護者からさらなる活用への要望が寄せられており、今後、効果的な活用方法を研究する。 ・学校自己評価アンケートで教員から寄せられた要望や提案も踏まえ、さらに積極的にDX化に取り組んでいきたい。	B	B